

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	③-17	実施計画番号		事業開始年度	
事務事業名	公用バス管理運行業務の民間委託への検討			事業終了年度	
担当課名	十和田湖支所			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	高齢介護課を筆頭に市の行事に広く利用されている公用バスは、十和田湖支所で期間業務職員を雇用して利用課の運行依頼に対応し運行管理している。				
事務事業の目的	公用バス管理運行業務において、バス運行の安定供給とコスト削減を目的とした民間委託への検討。				
実施状況	「湯っこで生き生き交流事業」のため1年を通して週3日の運行利用をしている高齢介護課と公用バスの民間委託について協議をした。高齢介護課が「湯っこで生き生き交流事業」のためバスの運行委託をしている業者から、支所バスが運行している分について見積書を徴収し比較検討を行った結果と現状維持が妥当であるという支所の考え方を高齢介護課へ伝えた。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)			

【指標】

活動指標	活動指標名①		公用バス管理運行業務の民間委託への検討			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
				支所バスに係る経費について確認。	支所バスの年間利用率77%を占める高齢介護課と民間委託について協議した。	
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		公用バス管理運行業務の民間委託への検討			
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値	H25、26年度バス経費算定確認	民間委託について関係課と協議し方向性を決める。	民間委託しない。
			実績値	H25、26年度バス経費算定確認	現状維持の方向性確定	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値			
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地	0 / 4
	②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地	0 / 6
	④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	6	コスト削減の余地	0 / 6
	⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地	0 / 4
	⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
					現在の適性	20 / 20	改善の余地	0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

公用バスで週3日運行している「湯っこで生き生き交流事業」について、高齢介護課で委託契約している業者から見積もりを徴収したところ、単年度で1,085万円の費用がかかる。現行管理経費(期間業務職員賃金年額 250万+バス事業費 150万=400万円)と比較すると、民間に委託することが逆にコスト高になり経費節減とはならない。よって現状のまま継続することが妥当な方向性と考えられる。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

公用バスの運行管理について、バスが利用可能なうちは現状のまま最少のコストで、湯っこで生き生き交流事業を含む市の行事に多角的に利用してもらうため、安全な運行管理に努めて参りたい。支所バスが老朽化により使用不可となった場合は、利用頻度の高い高齢介護課で支所バス運行分の事業について民間委託等を検討する必要があると考える。